

2017年4月5日

新生フィナンシャル株式会社

## 「SF ハッカソン」の実施について

当社では、大学生、大学院生を対象に、コア技術である個人信用リスク予測の高度化と学生に対する学習機会の提供を目的としたデータ分析コンテスト、「新生フィナンシャル(SF)ハッカソン」※を平成29年3月21日(火)から3月31日(金)の9日間実施し、最終日に外部審査員を招いた最終成果発表会を開催いたしました。

今回が第1回となった「SFハッカソン」では、東京大学、京都大学などから、6名の大学院生、大学生が参加しました。参加者は、当社が保有する個人向けカードローンの実際のデータを用いて、ディーラーニング、ランダムフォレスト、ロジスティック回帰などのアルゴリズムを使って、カードローン商品に申し込んだお客さまの貸倒確率を予測するモデルを開発し、モデルの精度やアイデアの新規性・発展性を競いました。

最終成果発表会では、6名の学生がそれぞれ開発したモデルのアピールポイントと判別力について約6分程度のプレゼンテーションを実施し、原隆日経 Fintech 編集長、加藤良太郎セカンドサイト株式会社代表取締役社長、杉江陸新生フィナンシャル株式会社代表取締役社長、星野アンドリュー株式会社新生銀行グループ事業戦略部上席業務推進役の4名の審査員がその内容の評価を行いました。

審査の結果、最も判別力が高かったモデルを開発した学生に付与する優秀賞には、東京大学新領域創成科学研究科修士1年の渡邊大志さんが、開発したモデルのアイデアやプレゼンテーションも含めた総合力で評価する審査員特別賞には、東京理科大学理工学部物理学科学部3年の原将太さんが選ばれました。

参加した学生からは、「9日間指導して下さった社員の意識の高さが大変印象に残った。実際にビジネスで活用されているデータを扱う機会はないので、大変勉強になった」との声が寄せられました。また、審査員を務めた杉江は参加した学生に対して、「将来、仕事をしていく上で、言語と数字が相手に物事を客観的に伝える力になるので、今以上に分析・プレゼン能力を磨いてほしい」と述べました。

当社は、「生活者のための金融サービス」をビジョンに掲げ、最先端技術の調査およびビジネスへの活用について研究を進めております。SFハッカソンはその活動の一環として開催したもので、当社では、今後も継続して実施してまいります。

※「ハッカソン(Hackathon)」とは、「ハック(Hack)」と「マラソン(Marathon)」を掛け合わせた造語で、一般的には、プログラマーやデザイナーなどからなる複数のチームが、与えられたテーマに対し、所定の期間集中的に作業を行い、その成果を競い合うイベントを指します。



優秀賞を受賞した渡邊さんと新生フィナンシャル杉江社長



審査員特別賞を受賞した原さんと杉江社長

以上